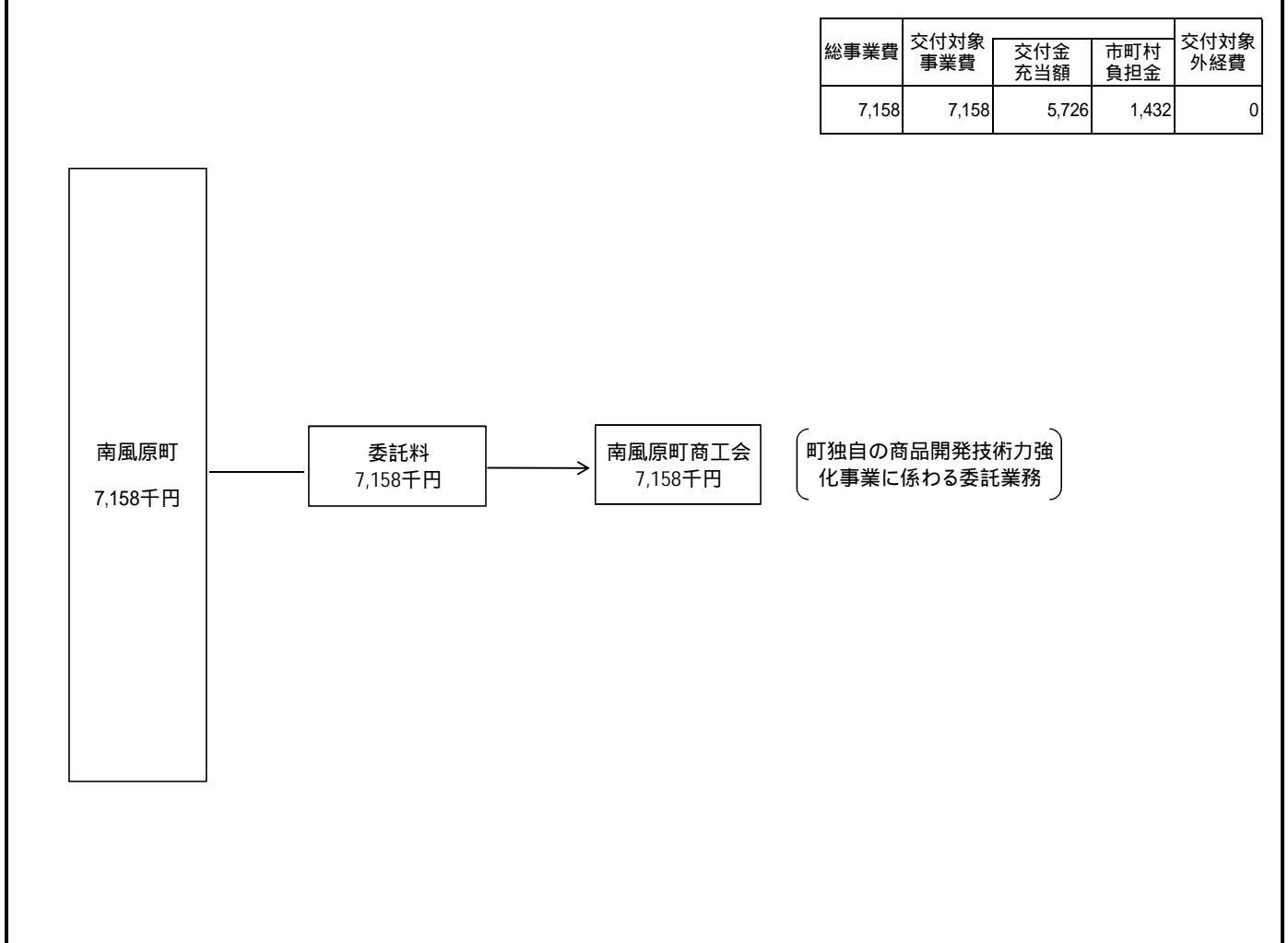


市町村名		南風原町						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2 - 町独自の商品開発技術力強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 3 - (9) - ア			
	担当部課名	経済建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	ものづくり産業の振興と地域ブランドの形成	
事業内容		地域資源の活用や異業種連携による商品開発及び企業と連携により消費者のニーズを踏まえたデザイン性・機能性に優れた南風原らしい、商品開発等を行い、産業展開する。異業種があつまり、プロジェクトチームを組み、南風原らしい商品開発を行い、生産、販路まで、展開し、競争力を高める。平成24年度はターゲットを2点に絞り、平成25年度は実際に商品をつくり、販路を開拓する。					- 1 - (1)	
	実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額		5,477	8,322			
		(b)予算現額		5,477	7,411			
		(c)増減額(b-a)		0	911			
		(d)繰越額		-				
		A.計(b+d)		5,477	7,411			
	B.執行済額			3,971	7,158			
	うち交付金充当額			3,176	5,726			
	次年度繰越額			0				
	執行率(%) (B/A)			72.5%	96.6%			
予算の状況の説明		事業計画において、県外を予定していた研修を県内研修へと変更したり、商標登録を弁理士でなく職員がおこなったことで、経費を抑えることができ、911千円減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況					
			24年度 (2 - -)	25年度	26年度 (2-)	27年度		
	プロジェクトチームによる試作品開発	目標	(2品)	(試作品開発)	()	()		
		実績	2品	試作品開発				
	試作品の試食会の開催	目標	()	(試食会の開催)	()	()		
実績			試食会の開催 (2回)					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> H24年度に発足した、「特産品開発チーム(プロジェクトチーム)」において、スターフルーツと美瓜の商品開発に取り組んだ。 県内外の商品開発に取り組んでいる事業所などを視察。南風原だけでなく、多くの場所や商品を見ることで知識を高め、情報を収集し、商品開発を行ううえで必要な発想力を養った。 開発した試作品の試食会や県内のイベント各種に試作品を出品し、アンケート調査を実施(ありんくりん市、町新年宴会)した。 							
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値 (年度)	24年度 (2-3-)	25年度	26年度 (2-)	目標値 (27年度)	
	プロジェクトチームによる試作品開発	目標	()	(2品)	(試作品開発)	()	()	
		実績		2品	試作品開発			
	試作品の試食会の開催	目標	()	()	(試食会の開催)	()	()	
		実績			試食会の開催 (2回)			
	【参考指標】 開発品のうち実際に商品化された商品の販売数 ゆめかなえぼしマドレーヌ(H25開発)	目標	()	(0)	(0)	(1,000個)	(1,700個)	
		実績		0	0	1,641個		
	【参考指標】 開発品のうち実際に商品化された商品の販売数 美瓜カレー(H26開発)	目標	()	(0)	(0)	(100食)	(350食)	
		実績		0	0	180食		
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度はプロジェクトチームで決定した2つのターゲット(スターフルーツ、へちま(美瓜))を使い、実際に試作品を作成した。スターフルーツでは、ジャムや酢漬け(ピクルス)、スムージーの試作品を制作、へちま(美瓜)では、ソースやジャム、佃煮、スムージーの試作品を制作し、素材の持ち味を生かしたさまざまな商品開発を模索した。 平成25年度には、前年度に模索した試作品の中からへちま(美瓜)は佃煮をピックアップ、スターフルーツはこれまでの試作品を生かした商品の開発が難しいとプロジェクトチームで判断し、視点を変え新たにコンフィ(砂糖煮)を制作し商品化に向けた取り組みを行った。 へちま(美瓜)佃煮では、佃煮を使ったパンの試作を行った。南風原町物産展でテスト販売し、売れ行きはよかったが、その後の製造を希望する事業者がなく、現時点で商品化には至ることができなかった。 スターフルーツのコンフィ(砂糖煮)では、マドレーヌの試作を行った。コンフィを使用したマドレーヌは平成26年度には「ゆめかなえぼしマドレーヌ」として商品化され、現在町内事業所1店舗で販売している。販売にあたっては、町内の小中学校正からマドレーヌの名称とパッケージデザインの募集を行った。 平成26年度は新たにへちま(美瓜)を使った「美瓜カレー」を開発し、町内事業所1ヶ所で販売を行った。 						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめかなえぼしマドレーヌ」「美瓜カレー」はそれぞれ、町内事業所1ヶ所での販売となっているため、販路先の開拓が必要。 ・平成25年度に試作をおこなったへちま(美瓜)佃煮を使用したパンの売上げは好調であったが、現在製造を希望する事業所がないため、製造業者の開拓が必要。 ・スターフルーツ、へちま(美瓜)を活用した商品をさらに開発できないか検討が必要。 ・原料であるスターフルーツとへちま(美瓜)自体の認知度が低いため、原料自体の周知、普及が必要。 ・農産物は時期や天候に収穫量が左右されるため、収穫量が少なくなる時期の対応が必要。 ・開発した商品の販路拡大をおこなうため、商品の知名度を向上させる取組、手法の検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめかなえぼしマドレーヌ」「美瓜カレー」の販路を開拓するために、販売店や町商工会、観光協会等と連携して商品のPRに取組んでいく。 ・へちま(美瓜)の佃煮を使用した商品をパンのみならず、ほかにも開発できないか、商品としての可能性の掘り下げと、開発に協力できる事業所の開拓を進めていく。 ・特産品開発の幅を広げるため、食材の加工方法についての研究に取り組む。 ・開発した商品を今後さらに普及させていくために、原料となる特産品の周知・普及活動を行う。 ・収穫量が少ない時期の対応に関しては、プロジェクトチーム単独で取り組むのではなく、関係機関との連携を図る。 ・町特産品を県内外へPRするため、積極的にイベントへ出店したり、SNSやインターネット等をこれまで以上に活用し、広報宣伝活動をおこなう。

今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめかなえぼしマドレーヌ」「美瓜カレー」の販路を開拓するために、販売店や町商工会、観光協会等と連携し、パンフレットの作成・配布や、インターネット・SNS等の活用、またイベント等への参加を通して商品のPRに取組んでいく。 ・へちま(美瓜)の佃煮に関しても埋もれさせるのではなく、新たな商品の開発ができないか検討していく。 ・スターフルーツ、へちま(美瓜)を使用した商品を開発するために、プロジェクトチームでスターフルーツとへちま(美瓜)の商品素材としての研究や可能性の検討、ブラッシュアップをおこない、商品開発に協力できる事業所の更なる開拓を同時に進めていく。 ・スターフルーツ、へちま(美瓜)の加工方法について研究するため、先進地視察や、有識者を招いての研究会等を開催する。 ・開発商品のPRだけではなく、原料となるスターフルーツ、へちま(美瓜)のPRもあわせて行う。 	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	随意契約により委託した南風原町商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一の地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を充分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの中小企業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であったと考えている。 使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	